

2020年1月8日

各 位

大阪信用金庫  
理事長 高井 嘉津義

## 定例調査：第182回 景気動向調査（10～12月期）

- ☆高まる不安、景況さらに悪化か？・・・・・・・・・・売上D I Δ1.5、収益D I Δ4.4
- ☆設備投資 ブレーキか？・・・・・・・・・・「予定あり」2.1ポイント下落
- ☆「売上停滞減少」2年ぶり最大問題点へ・・・・・・・・・・「売上停滞減少」44.2%
- ☆4年連続「賞与」高水準維持・・・・・・・・・・支給率66.2%

## ●高まる不安、景況さらに悪化か？・・・・・・・・・・売上D I Δ1.5、収益D I Δ4.4

総合では、売上D I -1.5（前环比+0.2ポイント）、収益D I -4.4（前环比+0.8ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに横ばいに推移し、依然マイナス圏に止まっています。売上D Iは、建設業が前环比+12.1ポイントとなりましたが、小売業（前环比Δ8.1ポイント）や卸売業（前环比Δ5.8ポイント）で前回調査から大きく下落しました。消費税率引上げの影響は、様々な業種に影響を及ぼしていると思われます。

1-3月期は、総合で売上D Iが4.5ポイント、収益D Iが2.3ポイント下落すると予想しています。特に卸売業は7.5ポイント、製造業は5.8ポイントの下落を予想し、米中貿易摩擦による直接・間接的な影響が長期化すると考えているようです。

## ●設備投資 ブレーキか？・・・・・・・・・・「予定あり」2.1ポイント下落

設備投資は、総合では「実施中」8.9%（前环比+0.5ポイント）、「予定あり」7.8%（前环比Δ2.1ポイント）で合計16.7%（前环比Δ1.6ポイント）となり、設備投資意欲は後退しました。設備投資に前向きであった製造業でも、「予定あり」7.6%（前环比Δ2.7ポイント）に落ち込み、売上の減少が1年間続いたことが、設備投資意欲の後退に繋がったと思われます。

## ●「売上停滞減少」2年ぶり最大の問題点へ・・・・・・・・・・「売上停滞減少」44.2%

経営上の問題点は、総合では「売上停滞減少」が44.2%、「仕入単価上昇」が41.8%、「人手不足」が37.2%となり、2年ぶりに「売上停滞減少」が最大の問題点に浮上しました。売上D I、収益D Iともに低迷し、先行きも悲観的な見方が多いことが要因と思われます。また、建設業やサービス業、運輸業では、依然、「人手不足」が最大の問題であり、従業員の確保に懸命です。

## ●4年連続「賞与」高水準維持・・支給率66.2%（前年比+1.3ポイント上昇）

冬季賞与を支給する企業は、66.2%（前年比+1.3ポイント）となり、2016年以降4年連続で6割超となり、高水準を維持しています。建設業やサービス業、運輸業では長らく続く人手不足の中、賞与の支給を続けざるを得ない状況にあると思われます。

調査時点：2019年12月上旬

対象期間：2019年10～12月期（実績） 2020年1～3月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,748社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,525社（回答率87.2%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL：http://www.osaka-shinkin.co.jp